

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.62

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Al McKibbon【アル・マッキボン】

Profile



Photo : Al McKibbon (1971)

1919年1月1日、米国イリノイ州シカゴ生まれ。本名はAlfred Benjamin McKibbon。父親はチューバとギター、母親はピアノを演奏。21年に一家でデトロイトに移住。ハイスクール時代にベースとピアノを学ぶ。17歳の頃までにナイトクラブで演奏し始める。43~44年ラッキー・ミリングアー楽団に加入。44~45年タブ・スミスやコールマン・ホーキンスのバンドで演奏。46年にJ.C. ハードのバンド、47年にレイ・ブラウンの後釜としてディジー・ガレスピー楽団に参加。49年にディジー・ガレスピー楽団を離れた後もラテン音楽を継続。同年マイルス・デイヴィスの名盤『クールの誕生』のレコーディングに参加。50年代にはジョージ・シアリング、セロニアス・モンク、カル・ジェイダー等のバンドで活躍。また、ハリウッドで映画やテレビ番組のサウンドトラックにも参加。60年代はロサンゼルスでスタジオ・ワークに従事。70年代はセロニアス・モンク、ディジー・ガレスピー等とツアーを行う。92年にモハーヴェ砂漠でシンフォニー・オーケストラとベートーヴェンの交響曲第9番を演奏。99年に初リーダー・アルバムをリリース。2005年7月29日、米国カリフォルニア州ロサンゼルスで息を引き取り、ハリウッド・ヒルズにあるフォレスト・ローン・メモリアル・パークに埋葬された。享年86歳。

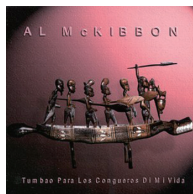
ビバップ初期の時代から活躍したいぶし銀のベースマン

1940年代~ビバップ初期の時代から晩年まで活躍したアル・マッキボン。ビバップからクール・ジャズ、ラテン~アフロ・キューバン・ジャズと幅広いジャンルで好演を聴かせてくれ、その実力に加えて人気度も高かった。ハリウッドで活動していた頃は、テレビ番組のテーマソングを演奏する機会もあり『ガンスモーク』『グリーンエイカーズ』『バットマン』『ジ・オッド・カップル』等のレコーディングに参加した。

初リーダー・アルバムを発表したのは1999年で80歳の時だったが、それまでは縁の下の力持ちとしてバンドを支え続けた。見事なベースワークに加えて、笑顔もチャーミングで人間味を感じさせるベースマンだった。現在活躍中のベーシスト、マイルス・モーズリーやジョシュア・クランプリー、ヘンリー・フランクリン等は、アル・マッキボンにベースを師事したが、そのベースマン魂は後世にしっかりと受け継がれている。

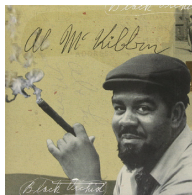
AM's Great Albums

晩年に発表された2枚のリーダー・アルバムの他、カル・ジェイダーやハービー・ニコルス等のアルバムをはじめ、サイドマンとしての参加アルバムもぜひ聴いて欲しい。



トロンボ・バラ・ロス・ロズグロス・ディ・ミ・ヴィダ
アル・マッキボン
(Blue Lady Records) [Import CD]

アル・マッキボンの記念すべき1stリーダー・アルバム。ラストの「エヴリシング・マスト・チェンジ」ではアルがヴォーカルも披露。1999年録音。



ブラック・オーキッド
アル・マッキボン

(Nine Yard Records) [Import CD]

アルの2ndリーダー・アルバム。左手に葉巻を燻らせて、はにかんだようなアル・マッキボンの笑顔が写るジャケットも印象的。2004年録音。



コンプリート・ラスト・ロンドン・レコーディングス
セロニアス・モンク

(MUZAK/Black Lion : MZCB-1390)

1971年のモンクのリーダー作最後の録音を収めた2枚組作品。1枚目がソロ、2枚目がアル・マッキボンとアート・ブレイキーとのトリオ音源。



ジャズ・オン・ザ・ラテン・サイド・オールスターズ Vol. 2
Various Artists

(Cubop Records) [Import CD]

2000年にLAで録音されたライブ盤作品。ラストは20分超えのアル・マッキボンをフィーチャーした「マッキボン・ウォークス・ザ・トーク」。